



日本二十六聖人記念館館長
Renzo De Luca, sj
レンゾ・デ・ルカ

指導者としての高山右近

世界中で政治不信が広まる現代、真の指導者の姿を示す人物が求められています。キリシタン時代の人物とはいえ、二〇一七年二月に列福される高山右近の生き方の中にその真の指導者の姿を見出すことができると思います。右近の指導者としての特徴をここで少し挙げてみましょう。

詳細は、拙稿「識別に生きたキリシタン大名、高山右近」―和田・荒木家との葛藤―(『キリシタン文化研究会会報』一三五号、二〇一〇年五月)を参照。

与えられた信仰を活かす

高山右近は、日本人伝道士ロレンソ了斎から洗礼を受け、その教えを深める方法を自ら探究し続けました。頂いた信仰を理解し、深める機会を見出しながら、右近は信者として成長していったのです。信仰に基づいて生きることの大変さ、喜びはその後多くの人を信仰に導く力となりました。

大名として、修道士を真似るでもなく、立場を言い訳に信仰をおろそかにすることもありませんでした。右近は自分にしかできない信仰者の生き方を発掘して成長しました。

受洗した時は皆と同じ、ごく普通の一信徒でしたが、無防備で信長の前に立った時(注)には右近

にしかできない役割を担い、信仰を証しました。**識別を伴う指導**

右近は宣教師の協力者であると共に、建設的な批判をする人でもありました。コエリヨ神父が秀吉に謁見した際には、軍事的援助の交渉が始まった途端、右近は危険を顧みずはつきり批判したと、その場に立ち会ったオルガンティノ神父が報告しています。イエズス会とフランシスコ会の修道会同士が反目し合っていた時、右近はフランシスコ会士の要理を聴きに行き、どちらも教えは同じという結論に至りました。追放された金沢で右近は身分に相応する宣教を行い、長崎では外国に送られる日を待ちながら、黙想(靈操)をしていました。このように、「識別さえすれば、どんな状況でも宣教はできる」という教えを残しました。

人に任せられる能力

誰もが認める指導者であった右近は、一方で人に任せる姿勢を貫きました。自身が追放された時には家臣たちに、領民の世話と信仰教育を頼み、マカオに向かった右近は、貴重な品々を知人に任せ、亡くなる時には家族の保護を任せました。

慈しみ深い指導

強い人であった右近は、他人の弱さを慈しむ心も持ち合わせていました。衰弱した蒲生氏郷の臨終に立ちあった際には、武人としてはなく友人として彼を慰め支えました。右近はキリストに倣い、人間の弱さを憐れむ人でした。日本の教会の発展に伴って秀吉による迫害が激しくなっていく中でも、右近は希望をもって見守りました。多くの家臣や領民をもつ右近に困難な問題が迫り、良心を試されるような決断を下さなければならぬことも多々ありました。しかし、どんな困難な状況でも慈悲の心を失うことは決してありませんでした。

福者高山右近が残した大事な教えは、どの時代においても対話のない指導はありえないことだと思えます。右近の生き方において、一番大事な対話の相手は神様でした。神様との対話(祈り)ができれば、

全てのものが異なった次元にみえます。右近は権力者や目上の人たち、宣教師とも積極的に対話したからこそ、自分の信念を貫くことができ、その対話から得たものに自分にしかできない生き方を見出ししました。

幸いに私達も歴史を通して右近のような人物と対話することができます。右近を模範に私たち一人ひとりにしかできない生き方を見出すように祈りたいと思います。



高岡古城公園 右近銅像

(注) 荒木村重が信長に謀反を起した時、板ばさみになった右近は家臣と領民、キリスト教の保護を頼み、出家を決意。まげを落とし紙子一枚の姿で信長の陣に向いた。

📄 掲示板

❖ 映画「沈黙」(マーティン・スコセッシ監督)の公開(二〇一七年一月二十一日より)にあわせて、

原作の遠藤周作『沈黙』と関連図書のコーナーを設けます。海外でも評価の高い名著とその舞台裏などにぜひ触れて下さい。

❖ 高山右近の列福式が、二〇一七年二月七日に大阪で執り行われます。

地位、財産、名誉を捨てて信仰に命を捧げた高山右近の生涯と霊性、時代背景などについての資料を集めてご紹介いたします。

❖ キリスト教専門の出版社が共同で厳選した、お勧めのロングセラー「これだけは読んでおきたいキリスト教一〇〇選」のリスト掲載図書をコーナーに揃えました。

初・中・上級向けに、教派やジャンルを超えて幅広くキリスト教を紹介する一〇〇選となっています。

利用者の声

愛と祈り、学びの「聖三木」 高橋 誠

私は、旧満州国の黒龍江省に生まれ、太平洋戦争の末期に父母に連れられて大陸を横断し、朝鮮民主主義人民共和国の鎮南浦という港から佐世保に帰国した一人である。

祖母の住む福岡の駐留米軍の基地の町で、恩師の導きにより仏教に親しみ、いつしか座禅に惹かれ、気がつくくと、心身統一と瞑想のための「数息法(すそくほう)」という呼吸法を身に付けていた。これは後に、『新良寛伝』の執筆の際に筆が止まったとき、大いに役立つ秘技?となった。

しかし、仏教の、人間が悟りを得て「即身成仏」するという教えは、吾が身を顧みさえすれば、到底信じられないことであった。

その結果、人間を超えた聖なる絶対的存在である「神」に目覚め、気が付くと受洗し、気が向いた時にミサに参列するという不良信者となっていた。

それでも、人間にとって崇高にして絶対なる存在はキリスト教の「神」であり、神は即ち「愛」であることに、ようやく目覚めたからに他ならない。元国語教科書編集者として、「真・善・美・愛と夢」を秘かに求め続けて、ようやく「愛」こそが「神そのもの」であることに気がついたのである。

当時編集委員であった遠藤周作先生の『沈黙』や『深い河』により日本人のキリスト教の受容について学べたのは幸いであった。

イグナチオ教会で神に祈り、隣接する聖三木図書館に収納されている貴重なキリスト教文献によって、「神」や「愛」そして「祈り」について学ぶことができたのは幸いである。

***** 今聖三木で読まれている本・新しい本 *****

キリスト教・聖書・イエス

- ゆれ動く日本人の心 粕谷甲一著
- 福音の実り:互いに大切にしようこと 本田哲郎著
- 何をおいても聖書を読みなさい ジョルジュ・ネラン著
- 禅と福音:仏教とキリスト教の対話 南直哉/来住英俊著
- 福音の喜び:人々の中へ、人々と共に 片山はるひ/高山貞美編著
- 福音み~つけた!:中学編/高校編 日本カトリック教育学会編

伝記・手記・エッセイその他

- 天使園 天使の聖母トラピスチヌ修道院著
- 高山右近 加賀乙彦著
- キリシタン大名高山右近とその時代 川村信三著
- 死すべき定め:死に行く人に何が出来るか A・ガワンデ著

- 生きていく上でかけがえのないこと 若松英輔著
- 須賀敦子の手紙:1975-1997年友人への55通 須賀敦子著
- アッシジの聖フランシスコ 藤代清治影絵と文
- 老境の美徳 曾野綾子著
- 感じるスコラ哲学:存在と神を味わった中世 山内志朗著
- ぼくは君たちを憎まないことにした アントワーン・レリス著
- 日本史再検証キリシタンとは何か 浅見雅一監修
- いのちをむすぶ 佐藤初女著

教皇フランシスコ関連 (2016.6月以降刊)

- 教皇フランシスコのことば365 マルコ・パッパラルド編
- ラウダート・シ:回勅:ともに暮らす家を大切に 教皇フランシスコ著
- 教皇フランシスコとともに:日々の内省 教皇フランシスコ著
- 教皇フランシスコ講話集3 教皇フランシスコ著
- フランシスコ教皇さまへ 世界のこどもたち質問と絵・教皇フランシスコ答え

お知らせ

❖冬期休館

十二月二十二日(木)〜一月五日(木)まで休館いたします。休館中の返却は入り口右手の返却口にお願いいたします。

❖冬期長期貸出

十二月二日(金)より長期貸出を始めます。

❖館報「みき」は聖三木図書館内でご自由にお持ちいただけます。また、当館ホームページでは「みき」とご好評をいただいております「ゆるし」各号をご覧いただけます。

友の会からのお願い

❖聖三木図書館友の会発行の聖三木図書館利用カード更新手続きと会費の納入はカウンターで受け付けております。利用カードの有効期間は一年です。

❖二〇一七年度より一般会員の会費が二〇〇〇円となります。

年会費 一般 三〇〇〇円

(注 二〇一七年四月一日より二〇〇〇円)

学生 一〇〇〇円

賛助会員 五〇〇〇円・一〇〇〇〇円

❖年会費をお振込みで納入される場合

みずほ銀行四谷支店 普通預金

口座番号 115848

口座名義 イエズスカイセイミキトシヨカントモノカイ

❖新規入会の手続きは随時カウンターで受付いたします。住所確認のため、免許証・保険証をご提示ください。

聖三木図書館報『みき』第2号

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1

岐部ホール2F TEL:03-3262-0364

HP: http://www.jesuits.or.jp/~j_seimikibun/